

# 東京市施工の復興橋梁



震災直後



工事中



竣工 都立中央図書館デジタルアーカイブ「大東京三十五區」1937

【吾妻橋】上段の”震災直後”の写真を見ると一見すっかり焼け落ちているようですが、吾妻橋は明治20年に架けられた鉄橋で、本橋は写真の右側になります。床が木で焼けてしまいましたが、橋自体は崩落していません。吾妻橋は震災当時、老朽化による架け替え工事をするため、仮橋を設けており、その橋が焼け落ちたのです。なお、吾妻橋は、ニューマチックケーソンのケーソン（橋脚の基礎となる箱）を用いて旧橋のコンクリート基礎を壊して沈下させるという工法を採用、国内初の事例となりました。

国が新橋を中心に施工するのとは違い、東京市が担った”架け替え”する施工は、困難を極めました。

旧橋の基礎撤去、掛け替える橋のデザイン、橋と道路の高さや宅地との関係、国の補助金や許可関係等問題を解決しながら進めていかななくてはなりません。

これらを解決しながら3橋（両国橋、厩橋、吾妻橋）すべて竣工したのは、両国橋竣工の昭和7年（1932）でした。国が施工した中で一番遅かった清洲橋の竣工が昭和3年（1928）なので4年も遅れています。大変な苦勞だったことがうかがえます。